

令和6年度研究プロジェクト計画概要

| | | |
|---|--|-----------|
| 研究種別 | ■自主研究 3 | 公益目的事業 11 |
| 主査名 | 谷口綾子 筑波大学教授 | |
| 研究テーマ | 自動運転システムの社会的受容：「標準的なアンケート指標」と「自動運転バスエクステリア要件」の検討 | |
| <p>自動運転システム(AVs)の社会的実装に向けて、各地で AVs バス/タクシーの実証実験/本格運行が進められており、ローカルな社会的受容を計るためのアンケート調査も実施されている。ただし、このアンケート調査の質問項目は、実施主体や実施年度により異なっており、比較分析は困難となっている。AVs 実証実験を単に「やってみた」で終わらず、本格運行を地域が受容するために必要な事項について知見を積み重ねるためにも、他地域の実証実験/本格運行の事例や、過去の実証実験との比較分析が不可欠であり、そのために AVs 社会的受容の標準的な指標を作成する必要がある。</p> <p>自動運転の社会的受容の評価指標は様々なものが用いられている。多くは賛否意識(社会実装に賛成しますか、利用意図(使いたいですか)、購入意図(買いたいですか)などで構成されるが、例えば実証実験が行われている市町村の「人口」など、妥当性に疑問が残る指標も存在する(日本の実証実験は山間地で行われることも多く、低評価となる)。また、「便利」など地域の移動装置としての評価や「かわいい」など車両エクステリアの持つ魅力度、「見守ろうと思う」などの配慮行動、そして「応援したい」「誇りに思う」など、その存在が住民のシビックプライドにつながる度合いも社会的受容を測る重要な指標となろう。</p> <p>2023 年度までに EU で AVs の社会的受容を扱う「SHOW プロジェクト」で提案された指標を改善した標準指標案を作成、茨城県境町、岐阜市にて調査を行うとともに、日立市、当別町、奥入瀬地域、サンフランシスコ、フェニックスでの調査を予定。今後、佐渡市、東広島市などさらに対象地域を増やし、地域間比較を通じた課題抽出を行いたいと考えている。また、AVs バス車両の外観(エクステリア)について、2023 年度に既存のバス車両の一覧表を提示し、一般市民の選好とその理由についてインタビュー調査を終えている。2024 年度はこの調査結果を基に市民アンケート調査や車輛製造会社、自動運転システム会社等の意見を踏まえつつ、人々に受け入れられる AVs バスのエクステリア要件について、人々に受け入れられる AVs バスのエクステリア要件を検討したい。そこで、本研究では、以下の2点を目的として研究に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none">① AVs の社会的受容を評価する指標を標準化すべく検討を行い、より多くの地域・実験に適用することでその有用性を評価し、我が国における AVs 社会的受容の標準的な指標を検討・提案し、調査分析結果を共有する仕組みを検討する②一般市民へのアンケート調査や事業者へのヒアリング調査により、人々に受容される AVs バスのエクステリア要件を検討・提案する。 | | |